



桐生ユネスコ協会

桐生ユネスコ協会の活動

会長 北川紘一郎

二〇一四年に「富岡製糸場と絹産業遺産群」がユネスコ世界遺産登録となった事には、心よりご同慶致します。この登録に至るには、桐生市の主導で平成二(一九九〇)年から始まった文化庁による「全国近代化遺産総合調査」がきっかけで、桐生にとっては誇りある活動でありました。産業遺産である養蚕、製糸、織物、流通などはシステムでのストーリー性を持つ遺産群として県境をも越えた関連構成物件で登録を目指す筈でした。

しかし、登録コンセプトの絞り込みや、桐生の特長事情などがありましたので、大変難しい選択と進捗を強いられ四物件で登録になりました。桐生市の織物系遺産ほか除外となった多くの構成資産候補物件は登録には至らなかつたとは言え評価の対象になったことは大変素晴らしい。という声がありますが二十年にもわたって活動してきた私達としては、ユネスコ精神を普及する拠点施設の世界遺産にならなければ意義がありません。生半可なガス抜きではユネスコの目的を果

たすことはできません。「桐生ユネスコ協会」や「桐生・世界遺産の会」では、今後、諦めずに「ユネスコ世界遺産都市桐生」の登録に向けて頑張つてゆく所存です。

「ユネスコスクール」は、二〇〇五年に国連で採択されたESDの計画を受けて十年間にわたつてユネスコがこの思想の実践を行つていけるものです。日本では二〇〇八年から文科省の推奨文書により動き出した地球環境の保全と平和意識の青少年教育とでもいえる活動です。現在はほぼ日本の学校教育の現場で行われていて、二〇〇八年には七十八校でしたが二〇一五年には九三九校までになりました。桐生ではいち早く桐生ユネスコ協会などで二〇〇九年八月五日に「ユネスコスクール研修会 in 桐生」を開催し、期待しましたが、残念ながら学校教育の中で実践されませんでした。その思想は Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育) の頭文字でESDと言います。

今、群馬県では前橋、藤岡、沼田、安中などの十六校に設立されていて未来の地球環境や平和活動に尽力しています。桐生ユ協では、行政との緊密な連携による未来に向けた青少年教育の実践を図つてゆきたいと考えています。

「桐生市文化祭のユネスコ世界遺産写真展」が二〇一四年五月三十一日と六月一日に桐生市文化会館にて開催されました。十五年にわたつて日本ユネスコ協会連盟所蔵のユネスコ世界遺産写真パネルを借用して展示しています。昨年からは同時に「富岡製糸場と絹産業遺産群」の写真等を展示し、富岡製糸場世界遺産伝道師協会から解説員のお手伝いを頂き充実した二日間をもつことができました。来客数が少ないのは毎年ですが、桐生ユネスコ協会の世界遺産啓蒙活動として開催してゆきます。

太田ユネスコ協会

次長 中村 利光

当ユネスコ協会は、三三〇名の会員により構成され、活動対象を児童生徒に視点を当てるとともに、市の国際化に歩調を合わせて活動を展開しています。主な活動は、英語キャンプ、国際理解バス、児童生徒作品展、近接高校弁論大会、出前授業などで、その他に市主催の各種事業に協力したり、県や国のユネスコ関係行事に参加したりしています。

ユネスコ英語キャンプは、毎年八月に県立東毛青少年自然の家を利用して、二泊三日で行っています。市内中学校の生徒六十数名が参加し、スキット練習や発表・キャンプファイヤーなど、様々な活動を通して交流を深めています。指導者として、教養部担当とともにALT二十名と日本人スタッフが加わり、内容の充



実に努めています。

国際理解バスは、八月に市内小学生の希望者を対象に実施し、三十数名が参加しています。世界遺産登録を機会に、昨年はこれまでのJICAから富岡製糸場などを見学し、理解を深めました。

ユネスコ交換児童生徒作品展は、太田市学習文化センターを会場に、十一月に三日間開催しています。市内の小中特別支援学校・幼稚園・保育園から、代表作品が出品されます。昨年は、九十八の校園から、絵が六九五点、書が三二五点出品され、四七〇〇名の来場者があり、事業への関心の高さが感じられました。

太田市近接高校ユネスコ弁論大会は、十二月に太田市立太田高等学校で開催されます。昨年は七校から十四名の参加があり、日本語弁論と英語スピーチの部で、学校生活や国際理解など、幅広いテーマで発表が行われました。